

活動実績報告書

平成29年12月25日

登録番号 20170934

氏名 下村 治雄

1. 活動状況

平成19年4月 ~ 平成29年12月

【活動の概要】

私は以前、九州森林管理局森林技術センター(現森林技術・支援センター)において、木材の生産から保育作業を通じた省力化及び低コスト化を主な課題とした技術開発に携わりました。取り組みに当たっては、地域の産学官の関係者の皆さんと意見交換を重ね、ご指導やご協力をいただきながら取り組みを進めました。その取り組みを通して、行政関係者だけではなく地域も含めた幅広い立場の関係者が連携して取り組む事の重要性を感じ、次に異動した署では、関係事業者等も含めた路網作設技術のレベルアップを図るための路網検討会や市場関係者と林業事業者の関係者に集まっていたいただき、双方の目線を合わせながらの採材検討会を実施しました。また、森林認証(SGEC)にも担当者として関わり「持続可能な森林経営」の重要性を関係者の皆さんと再認識することができました。

【当該活動を挙げた理由】

地域の森林・林業・林産業の活性化のためには、それぞれの地域の産学官の関係者が連携して取り組むことが重要であることをこれまでの業務の中から学び、そのために何ができるのかをこれまでで試行錯誤しながら業務に携わってきました。今後は、その国有林の職員としての経験と技術を、森林総合監理士として地域の林業振興に役立てていきたいと考えています。

【当該活動における、あなたの立場と役割】

技術開発については、主査として構想から試験地の設定、データ収集、成果の取りまとめに携わりました。各種検討等では、主査として、また司会進行として携わりました。

【活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策】

前述の業務を通して接した市町村の関係者の方々の中には、熱心な取り組みをされている市町村がある一方で、そうでない場合も少なからずあると感じました。森林・林業に関する専門知識や技術を持った職員が少ない市町村があることが原因の一つであると考え、その後、首席森林官として国有林の搬出間伐等の森林整備に携わる中で、隣接する民有林の搬出も考慮(逆に民有林の伐採等においては、隣接の分収林等の搬出を考慮)した連携の取れた効率的な路網計画及び開設になるよう、関係する市町村の方々に対して、その取り組みが将来の集約化等にもつながることも含め分かりやすく説明し理解と協力を努めました。

【活動による成果で残された課題及び今後の改善方策】

現在、私は国有林の森林計画の樹立に携わっており、前述の路網整備の取り組みから一歩踏み込んで計画の段階から連携することができれば将来的な集約化等も含めた市町村への後方支援につながるものと考えますので、今後も積極的に関わっていきたいと考えています。また、既に県の林業指導普及員等の方々熱心な取り組みにより成果をあげている地域もありますので、そのような良い例も参考にしながら、それぞれの地域の最も適した将来ビジョンをアドバイスできるよう、さらにそれを実現させていくための方法や課題を、国有林を活用した試行的な施業等も想定し、その地域の産学官の関係者が連携して考えていくことで、経済的合理性や科学的根拠のしっかりとしたものとなり、地域の関係者の合意形成も図りやすくなると考えますので、引き続き国有林の森林総合監理士として自分の置かれている立場々々でその役割をしっかり果たしていきたいと考えています。

2. 研修の受講状況

研修名 平成26年度 森林技術者ステップアップ研修 平成26年11月
(実施主体) 林野庁

研修名 _____ 平成 年 月
(実施主体)

研修名 _____ 平成 年 月
(実施主体)

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

・平成29年度フォレスター等活動検討会に参加 (平成29年12月)

注2: 2. 研修の受講状況、及び3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況については、直近の過去5年間に取り組んだ具体的な内容と時期を記載してください。

注3: 活動実績報告書は、A4で全2枚としてください。

注4: この活動実績報告書は、このままPDF化して林野庁ホームページに掲載しますので、見やすさ読みやすさ、個人の特定等、公開に差し障りのある表現にもご配慮ください。